

平成27年度第5回花巻市大迫地域協議会

会 議 録

日 時：平成27年10月19日（月）午後1時30分～午後3時50分

場 所：花巻市大迫総合支所 2階大会議室

会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 説明及び審議

- ① 花巻市立地適正化計画について
- ② （仮称）花巻市人口ビジョン（案）について
- ③ （仮称）花巻市まち・ひと・しごと総合戦略について
- ④ 市町村合併の検証について
- ⑤ その他

4 報告

大迫多目的広場（旧カントリープラザ跡地）再整備について

5 その他

6 閉 会

出席者

委員15名中13名出席

委員区分	団体及び役職名	委員氏名	住 所	出 欠
(1) 公共的 団体が推薦 する者	花巻農業協同組合 女性部大迫支部長	菊 月 美智子	亀ヶ森	欠
	花巻市大迫町森林組合 大迫事業センター フォレストリーダー	小 松 正 幸	内川目	○
	花巻商工会議所大迫支部 会長	山 影 義 一	内川目	○
	花巻市社会福祉協議会 大迫支部 支部長	佐 藤 格	亀ヶ森	欠
	花巻市大迫地域区長会 会長	藤 原 秀 基	内川目	欠
	大迫地区コミュニティ 振興会 副会長	村 田 俊 樹	外川目	○
	内川目コミュニティ会議 会長	伊 藤 修 悦	内川目	○
	外川目地区コミュニティ 会議 会長	佐々木 政行	外川目	○
	亀ヶ森地区コミュニティ 会議 会長	高 橋 正 克	亀ヶ森	○
(2) 学識経験を有する者		小 松 健次郎	内川目	○
		浅 沼 雅 代	大 迫	○
		菅 原 美智子	大 迫	○
		佐々木 一 夫	内川目	○
		松 坂 一 人	外川目	○
		菊 池 忠 久	大 迫	○
(3) 公募による者		なし		—

大迫総合支所

大迫総合支所長	藤 原 宏 康
地域振興課長	小 国 朋 身
市民サービス課長	佐 藤 富次男
地域支援室地域支援監	藤 原 正 己
地域振興課課長補佐（建設担当）	浅 沼 文 博

地域振興課課長補佐（産業担当） 中 村 陽 一
総合政策部長 八重樫 和 彦
総合政策部秘書政策課長 伊 藤 昌 俊
総合政策部秘書政策課主任 吉 田 真 彦
建設部長 藤 原 忠 雅
建設部都市再生室長 中 村 健 司
建設部都市再生室主査 小 松 博 幸

- 1 開 会 （進行） 大迫総合支所地域振興課 課長 小 国 朋 身
会議に先立ち、出席委員の状況について報告
委員 15 名中 12 名の出席で、委員半数以上の出席があるため、開催条件は満たすことを報告。
(花巻市地域自治区設置条例第 9 条第 2 項)
〈 内容については、記載を省略 〉
- 2 会長あいさつ
大迫地域協議会会長 佐々木 一 夫
〈 内容については、記載を省略 〉
- 3 説明及び審議 （進行） 大迫地域協議会会長 佐々木 一 夫
〈 内容については、記載を省略 〉
(会長)
それでは、(1) の花巻市立地適正化計画についてのご説明をお願いいたします。
(藤原建設部長)
花巻市立地適正化計画の概要について説明。
〈 説明内容については、記載を省略 〉
(中村都市再生室長)
花巻市立地適正化計画について説明。
〈 説明内容については、記載を省略 〉
(会長)
ただいまの説明が終わりましたので、ご意見、ご質問等をお願いします。
(菊池委員)
集合住宅整備についてですが、どのようなイメージなのかということ、それからリノベーションによる小規模事業等を創出というところですが、リノベーションというのは何を対象としているのか確認します。
(中村都市政策室長)
集合住宅整備に関してでございます。人口の減り具合、一部増えているところもありますけれども、各地域様々であります。その中で、花巻中央地区の人口減少率が花巻地域の中では一番高いといった状況です。郊外よりも花巻の町中の人口減少率が高い、ドーナツ化現象といった町の中から郊外の住宅街に出ているといった状況がうかがえます。これに関しては、市ですべてできるわけではありませんけれども、ある一定の規模の集合住宅を町の中に建設し、できれば民間にお願いしたいのですが、どうしても人口がないとそれを目当てにした様々なサービスというものが同時に逃げていくといった状況でございますので、集合住宅の整備を町中の遊休地に、閉鎖された店舗の跡地等を含めたエリアの中に整備していくということで現在検討しているということでございます。それから、リノベーションによるまちづくりについてですが、

それは何かということからお話しします。遊休不動産、空き家、空き店舗、空き地など、こういったものを活用して新しい仕事、雇用、そしてまちの賑わいを作っていこうという取り組みであります。何か新しい仕事を始めるということであれば、古い建物を壊して新しく建物を建てて華々しく事業を始めるというのがこれまでの主流といった考え方だったと思うのですが、そうするとどうしても初期投資が大きくて、その投資を回収するということは今はとても困難な状況でございます。従って、その空き店舗などを活用して新しい仕事、今風の商売ですとかを始めるというのがこのリノベーションまちづくりでございます。これは、花巻地域に限らず大迫の中心部の遊休不動産にも十分に活用できる取り組みでございます。国の制度ではなく、民間主導で始められた取り組みでありまして、現在、全国的にリノベーションまちづくりに取り組みもうとしているところがたくさんできております。花巻市でも駅前に4階建ての築50年以上経ったビルがあるのですが、そこを活用して、今日オープンなのですが、今風の洋風居酒屋とか、IT関係業者に入居してもらおうとか、こういった利用に転換していこうと取り組んでおり、こういった展開を各地域に広めていきたいと考えてございます。

(松坂委員)

土地計画法ですが、前に商工会議所が主体となって町中の安全を図りたいという話がありました。その中で、お盆のあんどんまつりの際に町中にある電線、電柱が邪魔をしている、電柱の埋設或いは後ろに移動させることができないかという話がありました。東北電力の知人にどうすれば良いか確認したところ、行政の都市計画があれば東北電力では無償で移しますということでした。そのようにするには、商工会議所なりがどのような意見集約をして、どこにもって行って都市計画の計画に入れてもらえば良いのか教えていただきたいです。

(中村都市政策室長)

電線地中化そのものを都市計画で行うということはありません。恐らく、都市計画事業として行う道路整備と併せて行うのであればできますということではないかと推察いたします。現状では、花巻の町中の道路を広げながら電線の地中化を進めてきたところもあります。現在、市役所の西側の道路を拡幅している最中ですが、ここも電線の地中化の計画をしているところです。大迫の現状に関しては、町の中に大きく道路を広げる計画があるかということが、まずポイントになるのではないかと考えております。

(松坂委員)

大迫では、道路を広げるということは考えていませんでした。ただ、広げないで歩道の分を色別するとしても電柱が邪魔だったということです。電柱が邪魔だったので後ろに持っていくという話になったということです。もし、電柱が移動できれば非常に便利な商店街になるだろうと思いますけれども、その方法論が分からなかったということです。それで、聞いたならば、都市計画の中でこうすればよいという計画があれば東北電力では無償で移しますという答えをいただいたところでした。ですから、都市計画の中にそういった方向性を作っておくためには、地域住民と商工会議所はどのような動きをしたら良いのかということです。

(藤原建設部長)

都市計画の話をしてしますと、中村室長の話のとおり事業化とか拡幅ということになりますけれども、今、国土交通省では電線の地中化ということは推進しております。ただ、地中化というのはかなりお金がかかりますので、国土交通省でもやれとはいえないものの、中々国からの補助金を出してくれないというのが実情です。いずれ、これからすぐにできるとは思いませんけれども、要望してくるといえるのであれば、相談させていただきましてこれからの進め方について協議させていただければ良いと思います。それから、電線を移転する、民地側に後退させるとい

うお話がありましたが、東北電力からあったのは恐らくこのことだったのではないかと思うのですが、民地の方々が一堂に合意していただけるのであれば移転は可能ですので、そういった部分も含めまして後でご相談させていただきたいと思います。

(会長)

今の話もありますが、町の人達の通学路確保という点でも大事であります。非常にあぶないです。前ばかり見ている背中からぶつけられるかもしれないというのが大迫の町なので、ぜひ検討していただき、すばらしい期待できる答えをいただきたいと思います。

(会長)

他にご質問等無ければ次に移りたいと思います。

次に、(仮称)花巻市人口ビジョン(案)について説明をお願いします。

(八重樫総合政策部長)

(仮称)花巻市人口ビジョン(案)の概要について説明。

〈説明内容については、記載を省略〉

(伊藤秘書政策課長)

(仮称)花巻市人口ビジョン(案)について説明。

〈説明内容については、記載を省略〉

(会長)

私からの質問ですが、社会動態の推移ということで、18年、12年プラスになっています。9年もですが、何があつてこのように人口が増えたのでしょうか。

(伊藤秘書政策課長)

これだというのは中々無いのですが、18年はライブドアショック、12年は企業倒産負債額が最大ということがありました。中央の景気が悪くなると外に出る人が少なくなるというのが傾向のようです。中央の経済が良いとどんどん中央に人が就職にいつてしまうというのがあるのではないかと考えております。

(八重樫総合政策部長)

企業誘致等の実績を調べてみましたが相対関係は無かったので、先程伊藤課長が申しとおりの理由なのではないかと考えております。

(菊池委員)

この推計はほとんど正しいのではないかと思います。

それで、意見ですが、20年後に老々介護にならないように、年寄りだけの世帯にならないようにしなければならないと思います。あくまでもこの推計は正しいと思うのであれば、20年後、30年後にここで生活している人達がどう年寄りだけでなく生活するかということが大事だと思います。昔は年寄りだけのまちだったけれども、今は若い人達も住んでいる。ただ、若い人達も20年、30年後には構成率も変わります。ですから、その時点で30年後に花巻市で若い人達が暮らしていけるか、例えば政策的に言えば、年寄りと若者が同居して、核家族にならないで同居するのであれば生活が非常に伸びるような施策を行うとかそういったことをやれば良いと思います。核家族だと設備投資が色々かかります。そういった部分を行政としてやれるのかということです。

ですから、核家族ではなくてむしろ同居世帯を推奨するような色々な政策を行って、そして20年後の中で、年寄りがまちの中心地で色々な活動ができるような部分をイメージしていただければ、ある程度住みやすいまちなるのではないかと思います。

(会長)

今の意見は、住みやすさ、幸せといった部分についてのお話、意見でした。なお、スパンですが、20年後、30年後じゃなくて、既に検証が大事になってくるのではないかと、その前になぜそうなっているのかという問題点の洗い直しみたいなものも常に必要ではないかと、特にこの大迫地域に関してはそのように感じております。

(八重樫総合政策部長)

今、佐々木会長からご指摘がありました総合戦略についてはこれからご説明させていただきますが、検証ということはそのとおりだと思います。市で有識者会議を作りまして、色々と御意見をいただいておりますが、これは進行管理を行っていくという戦略を5年計画で行ってございまして、常に見直しをかけながらその時その時の一番良い作戦で行きましょうということだと思っております、そのように進めていきたいと思っております。

(会長)

この項を終了しまして、次の(仮称)花巻市まち・ひと・しごと総合戦略(案)についての説明をお願いします。

(伊藤秘書政策課長)

(仮称)花巻市まち・ひと・しごと総合戦略(案)について説明。

(説明内容については、記載を省略)

(会長)

8月の地域協議会では、素案としていわゆる基準値とか数字的に載っていない部分がありました。今度は数字が載ったものを案として提案されております。中身も若干変わっているようです。

私から質問ですが、更にということは10月に国に出す計画という意味ですね。

(伊藤秘書政策課長)

今、地域協議会に意見を頂戴するというですし、今晩は大迫の市民の方々にご説明しますが、今の状況でご意見を頂戴して、直ぐに反映させられるものは反映させたいと思っておりますし、調整が必要だというのは年度内にと行うっていきたくて考えております。その二つに仕分けしながら行っていきたくて思います。

最終的には、年度内に皆さんの意見を調整したいと思っております。

(山影委員)

直接これからの計画に取り入れてもらうということは言われなし、無謀な話かもしれませんが、私は職業柄、農地転用だとか農業振興地域の除外ということで引かかることが多いです。紫波町では、1年に1回か2回農業振興地域の見直しをしているということです。花巻市では5年に1回しか見直しをしていないということです。紫波町の場合は1年に1回か2回で、緊急性のあるものは直ぐに見直しを認めると、農業振興地域から除外するというです。農業委員会とも連携しているの、人口が増えるためであれば農地が多少減ったとしても仕方ないだろうということで、農業委員会も理解しながら進めているようで、紫波町では宅地が増えて人も増えてきているという、そういった見方をしています。残念ながら花巻市の場合は5年に1回しか見直しが無いものですから、例えば都会で定年退職してお金はあるという大迫出身の方で、実家の土地を少し譲られてそこに移ってきたいという方が何人かありました。ところが、5年に1回ということもあるし、多少荒れているといっても農地なので農振法を被っているし、面倒だということで結局来ないでしまいました。そういったケースを見ているものから、農業振興地域の見直しについて、他の市町村と比べながら検討してみたいかでしょうか。何もしないでいけば5万人だと、何か取り組む努力をすれば7万人ということもある

かもしれません。結局、そういう法律があるために人が出ていく、或いは来る人も拒まれるというような状態がありそうなので、要検討ということでお願いしたいと思います。この計画に盛り込んでほしいというわけではありません。何とか一人でも出ていく人を抑える、一人でも入ってくる人を拒まないためには若干の農地を減らすのも仕方がないのではないかと、その辺のところは発想の転換が必要だと思います。そのためには、農業委員会の前に農振法があるわけですのでそれを大事にしないと、農地を大事にするのは私も農家なのでわかりますけれども、農地だけを大事にしても空いているところが多くなっているわけです。だから、荒れさせるくらいなら法律を少し緩めて認めてあげましょうというのはいかがなものでしょうか。

(八重樫総合政策部長)

農林部、或いは農業委員会の案件だと思いますが、現時点でどうこうするという事は申し上げられませんので、持ち帰らせていただきまして、これについては、戦略はさることながら制度として執行対策に何とか仕組みを改めるということができないかということは検討させていただきます。

(会長)

非常に困ったことを体験しておりますので、5年経たなければならぬと言われて、宅地ではなくても良かったのですが、結局、5年待つということは人を集めるとか出入りをできるだけ防ぐという部分、或いはUターンを考えるとといった部分で、農振の農用地の関係、農業委員会との連携、見直しの機会をもっともっと頻繁に持てるような形を一方で作らないとなかなか大迫の、花巻市の人口を増やすということを考えた場合に非常に難しいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

それでは、(3)まで終わったことにします。休憩とします。

25分までとします。

(会長)

再開します。

合併検証意見の集約について、説明をお願いします。

(小国地域振興課長)

〈 説明内容については、記載を省略 〉

(会長)

では、合併検証に係る集約について、一週間以内に地域振興課長に届くようにということで提出をお願いします。

以上で、説明及び審議を終わります。

4 報告 (進行) 大迫地域協議会会長 佐々木 一 夫

(会長)

報告の部に入ります。

大迫多目的広場再整備についての報告をお願いします。

(中村地域振興課長補佐)

大迫多目的広場(旧カントリープラザ跡地)再整備について説明。

〈 説明内容については、記載を省略 〉

(会長)

様々な機関から意見を聞いたという部分、修正を加えたという部分、予算が約1千万円増えるということ、平成28年度予算に間に合うという説明でした。あと、トイレの位置が若干動く可能性があるということがございます。

多目的広場ですが、長方形のようですが、縦横何mくらいになるのでしょうか。

(中村地域振興課長補佐)

芝広場は、概略ですが長いほうが46mくらい、短いほうが30mくらいです。ですので、ゲートボールであれば2面程度、テニスコートであれば1面程度となります。

(菊池委員)

この整備をするときは過疎債を使うようですけども、芝とアスファルトでは価格は結構違うと思います。それで前の協議の際に佐藤委員が話したと思いますが、協議結果がAになっていますがそれでよろしいか確認します。

(中村地域振興課長補佐)

協議の結果はBです。一部大型バスのスペースを広くとったことと、段差のないフラット舗装というのはこの図面に反映されておりますけれども、芝広場については舗装ではないので、協議結果はBということになります。付け足して話しますと、その下の5番のレストランに通じる階段の屋根及び手すりにつきましてはCとはなっていますが手すり等は設置済みですので、一部は反映済みでBということをお願いしたいと思います。

(菊池委員)

この施設は、大迫地域だけで活用するのか、それとも花巻全体で活用するのか確認します。

花巻全体としての活用であればということで、前回スケートボードの話を出しました。多目的広場は芝生を使ったほうが良いのかアスファルトにした方が活用されるのかということで意見を述べたのですが、例えばここの部分がアスファルトであれば、花巻の企業の展示会とか農機具展とか様々なイベントもできるのではないかと、そうした場合にはレストランや森のくにの活用にも繋がり、色々と人を呼べるのではないかと思います。アスファルトに賛成しました。芝だけだと行間が限られるのではないかと思います。ですから、全面的にアスファルトにすると過疎債を使えないというのであれば、駐車場の部分にスペースを作っていましたけれども、逆に右側のスペースが駐車場だけであれば、例えば展示会場にした場合にテントを張ったりイベントを行ったりする際等狭いのではないかと思います。一体型となればアスファルトの部分も過疎債の対象となると思います。全面をアスファルトにすると駐車場に限定されるから事業としては過疎債の対象にはなりにくいという話は前に聞いていました。それで、芝生もありステージもあるということでした。ただ、これだと右側は車しか置けないかたちで、色々なイベント、例えば展示会場となった際、芝生の中に機材等を入れなければならないという形になります。それであれば、右側の芝生の部分をアスファルトにしてイベントをできるような形にすればよいのではないかと思います。その分工事費がかかるから難しいというのはわかります。ただ、地元の活用だけということでは限界があると思います。やはり、花巻の企業も含めてここはイベント場になるのだとした方が、相乗効果として産直なり、レストランにも客を呼べる形にできるのではないかと思います。いかがでしょうか。

(中村地域振興課長補佐)

まず、花巻全体の施設か大迫の施設かということですが、基本的には大迫地域の施設だと考えています。大迫地域のぶどうの丘の活用に使えるようにということが1点、あとは多目的広場という根本的な考えからしますと、展示をメインにしたというよりはみんなが集えるスペースということで考えておりますので、公園的な要素が強いということでメインは芝とし、付随となる来場者用の部分は舗装して駐車できるようなスペースにすると考えています。先ほど過疎債というお話も出しましたが、多目的広場の一部とする駐車スペースとして舗装するのであれば通りが良いのですが、舗装を中心として多目的広場としても確認したわけではありませんが

難しいのではないかと考えます。今までの流れからするとそういった部分もあり、本来の目的である多目的広場の活用を考えた場合にはアスファルトではなく芝生で整備したいというのが我々の考えでした。

(会長)

広場についての意見ですが、芝生はいいという意見と、多目的に考えれば芝生が良いという意見があります。

(菊池委員)

全面舗装が難しいというのはわかりました。バスは5台入れるようですが、このままだとバックして出入りしなければならないようです。もう少し芝生の部分をカットしたほうが駐車場として使いやすいのではないかとと思うのですがいかがでしょうか。

(中村地域振興課長補佐)

産直側の自家用車のスペースですが、こちらの方は緊急時というお話がありましたが、大型バスがたくさん駐車する場合にはこちらに縦列に停めることも可能だと考えていますし、ステージの裏側にもスペースがありますので、そういった場所にも大型バスを駐車することができます。エーデルワインであり、ワインシャトー大迫であり、産直センターでありそれぞれの駐車場には一定程度の大型バスは駐車可能だろうということで、そこからあぶれた分をここに置くという考え方ですので、ここにもものすごくバスだけが集まるということは当初想定していませんし、それぞれの駐車場を使っただけあぶれた分はこちらで待機するという考え方になっております。

(会長)

大型バスの駐車場について、ここを利用しなければならないバスについての駐車場を考えているという説明です。

できるだけ使いやすい多目的広場にしたいと思います。

(伊藤委員)

ステージの屋根は付けるのかどうか、それと広場の芝生は天然か人工か確認します。

(中村地域振興課長補佐)

ステージに関しましては、屋根は付ける方向で考えております。人工芝か天然芝かということですが、部内で協議して結論がはっきり出なかったのですが、子供のいる方々、保育園、小学校のPTA等にもお聞きし、その結果をまとめて最終的に決めたいと考えております。ちらっと聞いてみたところでは、人工芝の方が多いような感じであります。

(会長)

天然芝と人工芝では費用もかなり違うのではないのでしょうか。

(中村地域振興課長補佐)

当初の施行に関していいますと、人工芝の方が金額は高いです。その後の芝の管理に関しては、天然芝は年間150万円ほどの管理費がかかってきます。先ほど、財源的なお話をしましたが、過疎債という起債は当初施行するときには、有利な起債で借り入れて、交付税で返ってくるのですけれども、年間の芝の管理に係る経費というのは起債を入れることができないので、その部分は持ち出しというかたちになると思います。保護者会等に伺ったときには、年間にそんなに維持管理費がかかるのであれば人工芝のほうが良いのではないかという、経済的なお話をされる方も結構おりました。

(伊藤委員)

テニスコート1面くらいということでしたけれども、テニスコートとかの施設を考えている

のでしょうか。ネットとかポールとかもです。

(中村地域振興課長補佐)

ポール用の穴とかは今は考えていませんでしたが、スペースはとれます。可能なスペースがあります。

(伊藤委員)

せっかくですから、テニスコート1面でもよいので使えるようにしてほしいです。

(中村地域振興課長補佐)

検討させてください。

(菅原委員)

天然芝というのは、背が伸びますよね。総合文化財センターの前の広場は天然芝だと思いますが、私の膝丈くらいまで伸びていることがあります。そのくらい経費がかかるのであれば、人工芝でも良いのではないかと思います。それで、人工芝で経費がかかるというのであればアスファルトにしたほうが、ワインまつりにしても産業まつりにしても雨が降ったときのことを考えるとそのほうがよいのではないかと思います。

(中村地域振興課長補佐)

ご心配いただいたとおり、総合文化財センターの前は人工芝ですが、なかなか管理が難しいようです。天然芝を綺麗に保つためにはそれなりのお金と労力がかかるのではないかと考えております。

(菅原委員)

あと、トイレの場所もこの場所ではない方がよいのではないかと思います。ステージの脇にトイレがあるというよりも、こんなにスペースがあるわけですからどこか違う場所にトイレを設置してはいかがでしょうか。

(中村地域振興課長補佐)

ステージの近くではなくということですが、出入り口がよいとか階段の付近がよいとか、もし、具体的にどこがよいというのがあればお聞きしたいのですがよろしくお願いします。

(菅原委員)

階段のところはいつも上り下りする人で込み合いますので、駐車場の隅のところでもよいかとも思いますが、今はちょっと想定できません。

(中村地域振興課長補佐)

トイレの場所についてはもう少し検討させていただきます。

(松坂委員)

外灯5からの道路の部分に段差がありますが、大型車が通るときに底を擦らないでしょうか。ちょっと工夫した方がよいと思います。

(中村地域振興課長補佐)

外灯5番と既存の道路の出る部分だと思います。確かにバスが出たり入ったりするという想定はありますが、ここの取り付けには段差とか気を付けて行いたいと思います。

(会長)

多目的広場については、この間も報告があり本日再提案ということで最終的な提案ということですが、いずれ、検討していただく部分は検討していただくことを約束しまして終わりたいと思います。

以上で報告を終わります。

5 閉会 (小国地域振興課長)